

## \*ペシャワール会発足四〇周年によせて

### 中村先生と歩いた二四年

「命の園」ができるまで

PMS 副院長 / ジャラバード事務所所長  
ジアウル ラフマン

### ハンセン病治療に邁進

私はアブドル ラフマンの息子のジアウル ラフマンと申します。一九九六年にペシ

ヤワールの JAMS (日本-アフガン医療サービス) の医師として働き始めました。

JAMS は、一九八九年のソ連軍撤退後、ドクターサーブ中村の指導のもと、アフガン東部でナンガラハル州にドラエヌール、クナール州にドラエピーチ、ヌーリスタン州にワマ診療所を開設し、職員が交代制で各診療所に出向き、患者の治療にあたっていました。

私が採用された当時、ドクターサーブ中村はアフガン人、パキスタン人のハンセン

病の診療をスムーズにするために、活動の拠点をミッション病院から PLS (ペシャワール・レプロシー・サービス/現 PMS の前身) に移して二年が経っていました。

ドクターサーブは、JAMS 院長のドクターシャワリに、人手不足のため JAMS から医師一名と看護師一名を PLS に派遣するようにと指示していました。ドクターシャワリは JAMS の医師一人ひとりに自ら進んで PLS の病院に行く者はいないかと尋ねましたが、誰一人手を挙げる者はいませんでした。

結局、ドクターシャワリが私に PLS 病院に行つて欲しいと要請したので、私はそれに従うことになりました。看護師の故モハマッドアクバルと共に PLS に派遣され、ドクターサーブの指導のもと、ハンセン病棟で働き始めたのです。PLS は二四時間門戸を開放してパキスタン人やアフガニスタン人のハンセン病診療をしていました。

やがてハンセン病患者の多い場所での診療を目的に、パキスタンのドバイルやマストジヤラシュトに診療所を開設し、アフガニスタンの診療所と合わせて、私たちは一カ月交代で勤務し診療を行ないました。ディール郡テメルガル診療所では、アフガニスタンのハンセン病多発地帯から難民となつてくる人たちを待ち受けて診療をしました。

一九九八年、ペシャワールに近代設備を備えた PMS 基地病院が建設されました。七〇床あるこの病院ではハンセン病の機能再建





ドクターサーブ中村は自ら診療所に赴いて実態をつぶさに見て回りました。後にはカブールでの調査を主導されました。PMS職員は米軍の空爆が続くカブール市で一軒一軒回って状況を調べていきました。勇敢な彼らが自ら死の危険を恐れず実施した調査の結果をドクターサーブに伝えると、二〇〇キロの小麦粉と調理油十六リットルを五万世帯に直接配布するよう指示されました。実行委員、調査チーム、配給チームが任命され、食糧を調達しました。そしてドクターサーブの指揮のもと、私たちは食料配布を開始したのです。

配給チームは計画通り、カブール市内全域で事前に配った配給票をもった家族に食糧を配布しました。翌日も同地域で配給を実施しました。ナンガラハル州でも米軍空爆の被災地域を調査し、配給票にもとづいて食糧を配りました。これにより配給がなければ確実に死んでいた大勢の子供や妊婦の命が救われました。

### 灌漑事業・学校建設・命の園

第一次タリバン政権崩壊後に新政府が政権を掌握すると、国際支援団体や地元NGOがカブールで活動を再開しました。カブールで援助組織が急増していくのをPMSの私たちも肌で感じました。

やがてドクターサーブが本来のPMS活動地すなわちアフガン東部に戻った方が良さだろうと判断なさったので、私たちはそ

の指示に従ってカブールを去りました。そして干ばつの続く東部で医療と井戸掘りに専念しました。東部では農業用水のない住民が故郷を捨ててクナル河やカブール河周辺地域や近隣諸国に移り住んでいました。そこでドクターサーブは二〇〇三年に「緑の大地計画」を開始してナンガラハル州からの住民流出を止めると発表しました。

こうして「夏の洪水時には農地を水害から守り、川の水位が下がる冬季には灌漑用水を供給する」とのスローガンのもと計画が進められていきます。

まずシェイワ郡、カマ郡、ベスード郡で取水口、用水路を建設し、二〇一九年十二月四日までにカブール河とクナル河沿いに十カ所の取水口と用水路を建設しました。これにより一万六五〇〇ha（現在は二万三八〇〇ha）の土地で冬季でも農業が可能になりました。

これらの地域では住民は銃の代わりに鋏をもって農業に動かしむようになり、干ばつでよその土地に移住していた住民の多くが戻って来ました。ドラエヌール地区では揚水ポンプを使っていた農業用井戸が、現在では太陽光発電で稼働しています。さらに三八本のカレーズ（地下水路）がPMSによって復旧されました。

また、シェイワ、ドラエヌールのほかクナル州各地区の住民が地元で学校がないために近隣諸国に移住していましたが、二〇〇六年、地域住民の要請にこたえ、ドク

ターサーブがシェイワ地区にモスクとそれに付随した学校建設に着手、後に寄宿舎も建設されました。「マドラサオブノマニヤ」と名付けられた学校は現在、十四年生（高校）までの生徒に宗教および一般科目を教えており、多数の生徒が卒業しています。

かつて「死の沙漠」と呼ばれていたガンベリ沙漠は開墾不能な土地でしたが、二五km上流のマルワリド堰から取水された水が到達している今では「命の園」となっています。ここでは一七六ジェリブ（約二三〇ha）の土地が開墾され、ドクターサーブ中村の名前を冠した公園が建設されています。庭園を整備し、一〇〇万本を超える果樹や樹木を植えました。各地から多くの人がこのガンベリ公園を訪れて、ピクニックを楽しんでいます。

\*

私は二四年間、ドクターサーブ中村とともに歩んできたこと、PMSに二八年間勤めてきたことを誇りに思います。ドクターサーブ中村とともに二四年の間に成したこと、を簡略にまとめました。もっと詳しく語るならば、何冊もの本が書けることでしょう。最後に、ドクターサーブ中村は行動する人であっただけではなく、人類にとっての学校、思想そして哲学そのものであったと思います。

どうかドクターサーブの魂が喜びに満ち、ドクターサーブの記憶がいつまでも人々の心に刻み込まれますように。